大倉集古館創建時図面の調査

THE STUDY ON HISTORIC DRAWINGS ABOUT OKURA MUSEUM OF ART

杉江夏呼 ——— * 1

キーワード：

伊東忠太, 大倉喜八郎, 図面, 大倉土木, 歴史的建造物

Keywords:

Chuta Ito, Kihachiro Okura, Drawings, Okura Doboku Corporation, Historic architecture

Natsuko SUGIE ——— * 1

The study describes an analysis on historic drawings about OKURA MUSEUM OF ART designed by Chuta Ito. There are 43 drawings, these drawings are original drawings, blue prints, microfilms. Only one sheet of drawing has a signature by Chuta Ito. 14 architectural drawings have a common title block. These are the final drawings. There were somehow related to Chuta, and definitely or probably designed by Chuta. These 14 final drawings are not a reduced scale. So it is impossible to build the museum building with these final drawings. I assume there was a backup by Okura Doboku in the construction.

1. 研究の背景・既往研究・目的

大倉集古館建屋は、伊東忠太設計・大倉土木株式会社（現大成建設）施工により、1927年11月竣工した。2013年時点の外観を写真1に示す。付属の管理事務所を仮移転した2015年に、大倉集古館建設時の創建時図面が発見された。大倉集古館の創建時図面は、作品集¹⁾建築雑誌²⁾「財団法人大倉集古館、祇園閣、京都大倉別邸建築記念写真帖」³⁾に掲載されているものが数枚ある^{註1)}。また大成建設に創建時図面が21枚残されていることを、著者が報告している⁴⁾。大倉集古館建屋の図面に関するこれまでの研究を顧みると、倉方俊輔の論文⁵⁾～⁷⁾や拙稿⁴⁾⁸⁾があるが、今回発見の創建時図面は対象にしていない。大倉集古館建屋は1998年に国の登録有形文化財となり、その文化財価値が認められた昭和初期の貴重な美術館建築である。本稿の目的は、価値の高い大倉集古館建屋の創建時図面資料を調査することによって、伊東忠太の行った設計内容と経緯、大倉土木との協働を明らかにすることである。大倉集古館建屋と同時期に建設された祇園閣図面のうち、大成建設所蔵^{註2)}創建時図面82枚については、前稿⁹⁾において伊東忠太自筆図の特徴をいくつか指摘した^{註3)}。本稿においても同様の視点で大倉集古館の創建時図面を対象に調査を行い、更に祇園閣図面と比較考察を行う。伊東忠太の設計活動に関する研究を更に進める上で、これらの成果は意義があると考えられる。

写真1 外観（2013年）

2 大倉集古館の建設経緯・建物概要・沿革

大倉集古館は日本初の私立美術館といわれる。大倉土木など数々の企業の創立者である大倉喜八郎(1837～1928)により設立された。大倉喜八郎は50余年にわたって蒐集した多数の文化財、土地、建物を寄付し、1917年8月財団法人大倉集古館が誕生した。しかし1923年関東大震災により、当初の建物と陳列中の所蔵品を失った。幸い倉庫は無事であったため、伊東忠太設計による耐震耐火の陳列館を建築して、1927年11月竣工1928年10月再び開館した¹⁰⁾。これが現大倉集古館建屋である。第二次世界大戦中には幸い空襲の難を免れた。記念写真帖³⁾に記載された建物概要の抜粋を以下に示す。

所在地：東京市赤坂区葵町三番地（現 東京都港区虎ノ門2-10-3）

建築年：起工、大正十五年（1926）一月二十日

竣工、昭和二年（1927）十一月二日

設計者：伊東忠太博士 施工者：大倉土木株式会社

構造概要：本建築は耐震耐火性とし、主要軸部を鉄筋コンクリート造、屋上小屋組は鉄骨造とする。

様式：支那風 注）上記（）内は著者による追記。

1962年ホテルオークラ建設に伴い、大倉集古館の付属棟（写真2手前に写る別館・渡り廊下・六角堂）が撤去された。

写真2 外観（1927 竣工時）

本稿は2015年度日本建築学会大会（関東）で発表したもの⁴⁾に、追加・加筆した。

¹⁾ 大成建設一級建築士事務所 博士（工学）
〒163-0606 新宿区西新宿1-25-1

¹¹⁾ TAISEI DESIGN PLANNERS ARCHITECTS & ENGINEERS, Dr. Eng.

3 設計者伊東忠太と施主大倉喜八郎の関わり

伊東忠太と大倉喜八郎の関わりは、1912年に始まったと言われる。大倉喜八郎が向島別邸建設に当たって、片山東熊や妻木頼黄、伊東忠太に建物の相談したことが契機となった¹¹⁾。伊東忠太が設計を行った大倉喜八郎関連の物件は、大倉集古館と同時期に建設された祇園閣や京都大倉別邸など8件であり、そのうち4件が建設された⁴⁾。護国寺にある喜八郎の墓も伊東忠太の設計によるものである。大倉集古館は中国風の独特な意匠から、伊東忠太の東洋建築に関するうんちくを引き出した作品と言われる。また伊東忠太の伝記をまとめた建築家岸田日出刀は、大倉集古館について「建物と作者がとがピッタリ合った、この作者にしてこの作ありの感を深ふするやうな建築である。」と述べている¹²⁾。

4 創建時図面概要と調査内容

大倉集古館から新たに発見された創建時図面は、3つの図面綴りとバラの青焼き図面である。3つの図面綴りの内容は「市街地建築物法に基づく建築申請書の添付図」「大倉集古館建築図」「市街地建築物法に基づく変更申請書添付図」であった（写真3）。バラの青焼き図は3つの図面綴りと重複が多く、重複していない図面は9枚だった。既報告⁴⁾の大成建設所蔵21枚とも内容を確認したところ、大成建設のみが所蔵する図面が2枚あった。これら創建時図面のリストを表1に示す。大倉集古館所蔵図面はセント紙に描かれた原図が2枚（いずれも設備図）、他は全て青焼き図、大成建設所蔵図面はマイクロフィルムである。本稿では内容を見やすくするため、青焼き図の白黒を反転して掲載する。図面の調査は、作図年月日、忠太印や署名の有無、図面枠や筆致などに注目して行う。

写真3 左「市街地建築物法に基づく建築申請書」つづり
中央「大倉集古館建築図」つづり
右「市街地建築物法に基づく変更申請書」つづり

4.1 「市街地建築物法に基づく建築申請書の添付図」

図面枚数 11 枚（表1 No1～11）

建築許可証の発行日は大正15（1926）年1月9日である。表書き申請書に記載されている設計者名は大倉土木株式会社建築部で、伊東忠太ではない。表書き申請書に続き、青焼き図面が折込まれて綴じ紐でまとめられている。各図面は、図面の裏に「3 平面図」のように通し番号と図面名が文字書きされ、図面の表に図面と図面名が書かれている。表側の図面名には記載がないものもある。添付図の1枚目は「1 参考立面図」（図1）で、作図年月が大正十四年五月と記載がある。この「1 参考立面図」は、作図年月の記載がある全

5枚の中で最も古い。調査対象図面の中で唯一「工学博士伊東忠太考案」の記載があり（図1①）、伊東忠太の関与は明らかである。前稿⁹⁾で確認した伊東忠太自筆図面と共通の特徴は、記名以外に人物が描かれている（図1の②-1、②-2）ことである。

図1 参考立面図（表1のNo1図）

この図面は伊東忠太自筆の可能性があると考え、作品集¹⁾の他の自筆図面と比較した。作品集に大倉集古館図面2枚が掲載されているが、いずれも自筆図でない。作品集に掲載されている伊東忠太自筆図面は18枚あり、そのうち16枚は立面図（平面図併記含む）だった。16枚全てにスケールバーの記載があり、15枚に人物の記載がある。図1は人物の記載はあるがスケールバーは記入されておらず、筆致も他の自筆図と異なることから、伊東忠太の関与は明らかであるものの、自筆図ではないと考えた。

4.2 「大倉集古館建築図」図面枚数 18 枚（表1 No12～29）

「大倉集古館建築図」の表紙の次に、青焼き図面が折込まれて綴じ紐でまとめられている。10枚の意匠図と8枚の構造図からなる一綴りの図面である。日付の記載のあるものは1枚（表1 No22別館各側壁配筋図）のみで、その日付は「15.3.1」とあり、前述工期によると既に施工期間中である。意匠図10枚全てに、60mm角の図面タイトル枠が書かれている。図面タイトルは縦に5行、右から物件名（大倉集古館）・図面名・縮尺が記入されている。8枚は構造図で、大倉土木の図面タイトル枠又は図面枠なしに書かれている。これら2つの図面タイトル枠を図2に示す。構造図の図面タイトル枠は、祇園閣で使用されたものと同じだった。意匠図10枚には、寸法記入が全くない。縮尺が記入されているので、スケールを当てれば大まかな寸法は分かるが、この図面に基づき施工することは困難である。また施工会社の大倉土木が、寸法記入のない施工困難な図面を作成するとは考えにくい。寸法記入のないことから設計初期段階の図面とも思われたが、縮尺1/2の詳細デザイン図などあり、更にそのデザインは現建物に近いものが多い（図3）。これら図面は、むしろ設計後期の図面と考えられる。また屋根の飾り金物や階段手すりの狛犬な

表 1 大倉集古館現建屋創建時図面一覧

*) 記名はないが伊東忠太の関与図と判断した図面

		No	年月日	図面名称 【】内は図面名称の記載がない場合の図面内容 ()内は図面裏に記載された図面タイトル	縮尺	図面種	伊東忠太の関与を示す記載	寸法記入	備考
1 市街地建築物法に基づき建築申請届書添付図	建築許可證大正十五年一月九日	1	大正十四年五月	大倉集古館建築設計図 (1 参考立面圖 1/100)	縮尺 百分ノ壹	なし	工学博士 伊東忠太考案	なし	人物、植栽の記載あり
		2	なし	大倉集古館建物配置図 (2 配置圖)	1/300	なし	なし	なし	新築部分、焼跡保存部分、焼跡取除キ部分の記載あり
		3	なし	【全体の平面図と建築敷地高低表示図】 (3 平面圖)	なし	なし	なし	あり	人物の記載あり
		4	なし	基礎圖 (4 基礎平面圖)	1/100	なし	なし	あり	
		5	なし	【西面と東面が半分ずつ書かれた立面圖、1/4 程度が断面圖になっている南立面圖】 (5 本館立面圖 1/50)	なし	なし	なし	あり	地盤面からの床高、軒高などの記載あり
		6	なし	別館立面圖 (6 別館立面圖)	1/50	大倉土木	なし	なし	別館立面圖と平面圖が記載。
		7	なし	【六角堂と渡り廊下の立面圖、断面圖】 (7 亭及渡り廊下 1/100)	なし	なし	なし	あり	
		8	なし	【本館小屋組】 (8 本館小屋組詳細圖 1/20)	なし	なし	なし	あり	
		9	なし	【配筋圖】 (9 本館柱梁基礎及天井版配筋圖 1/20)	なし	なし	なし	あり	
		10	なし	【本館二階床版配筋圖】 (10 本館二階床版配筋圖 1/20)	なし	なし	なし	あり	
		11	なし	【別館の矩計に配筋鉄骨を記入したもの】 (11 別館詳細圖 1/20)	なし	なし	なし	あり	
2 大倉集古館建築圖		12	なし	大倉集古館・立面圖	1/100	正方形	なし*	なし	
		13	なし	大倉集古館・平面圖	1/100	正方形	なし*	なし	作品集・建築雑誌・記念寫真帖掲載圖、スケールバーあり
		14	なし	大倉集古館別館立面圖	1/100	正方形	なし*	なし	
		15	なし	大倉集古館別館車寄及玄関詳細圖	1/20, 10	正方形	なし*	なし	建築雑誌掲載圖、動物モチーフの詳細あり
		16	なし	大倉集古館六角堂詳細圖	1/20, 1.5	正方形	なし*	なし	動物モチーフの詳細あり
		17	なし	大倉集古館本館立面圖	1/50	正方形	なし*	なし	
		18	なし	大倉集古館本館室内詳細圖	1/20, 5	正方形	なし*	なし	建築雑誌掲載圖、動物モチーフの詳細あり
		19	なし	大倉集古館本館階段室詳細圖	1/20, 10	正方形	なし*	なし	動物モチーフの詳細あり
		20	なし	大倉集古館本館二階望縁詳細圖	1/10	正方形	なし*	なし	
		21	なし	大倉集古館本館屋根詳細圖	1/20, 2	正方形	なし*	なし	動物モチーフの詳細あり
		22	15. 3. 1	大倉集古館別館各側壁配筋圖	1/50	大倉土木	なし	あり	
		23	なし	(別館床スラブ、基礎配筋圖)	なし	大倉土木	なし	あり	
		24	なし	柱及び壁配筋圖	なし	なし	なし	あり	六角堂の図面
		25	なし	本館正面広間間仕切矩計	1/10	大倉土木	なし	あり	
		26	なし	本館柱鉄筋詳細圖	1/30	なし	なし	あり	
		27	なし	(階段配筋圖)	なし	なし	なし	あり	
		28	なし	集古館本館隅小屋詳細圖	なし	なし	なし	あり	
		29	なし	屋根小屋詳細圖	1/10	なし	なし	あり	
		30	なし	屋根小屋詳細圖 (本館小屋組変更圖)	1/10	なし	なし	あり	「朱書ノ通り訂正ス」と書き込みあり。No30 図に赤で訂正
		31	なし	小屋受水平トラス詳細圖 (本館小屋受水平トラス)	なし	なし	なし	あり	
		32	なし	別館小屋組変更圖 (別館小屋受変更圖)	1/10	なし	なし	あり	「朱書ノ通り訂正ス」と書き込みあり。
		計算書 1	なし	大倉集古館新築工事設計変更申請書添付計算書	なし	大倉土木	なし	—	8 ページの計算書
		計算書 2	大正十四・十・廿四	大倉集古館計算書	なし	大倉土木	なし	—	26 ページの計算書
3 物申法請届書添付図	大正十五年六月二日	30	なし	屋根小屋詳細圖 (本館小屋組変更圖)	1/10	なし	なし	あり	「朱書ノ通り訂正ス」と書き込みあり。
		31	なし	小屋受水平トラス詳細圖 (本館小屋受水平トラス)	なし	なし	なし	あり	
		32	なし	別館小屋組変更圖 (別館小屋受変更圖)	1/10	なし	なし	あり	「朱書ノ通り訂正ス」と書き込みあり。
		計算書 1	なし	大倉集古館新築工事設計変更申請書添付計算書	なし	大倉土木	なし	—	8 ページの計算書
		計算書 2	大正十四・十・廿四	大倉集古館計算書	なし	大倉土木	なし	—	26 ページの計算書
4 バラ図面		33	大正十四年十一月	大倉集古館敷地排水設備配置圖	1/300	なし	なし	なし	申請圖の配置圖に排水設備を記入している
		34	なし	大倉集古館建築平面圖	1/100	なし	なし	あり	本館陳列室が3室に分けられている
		35	なし	大倉集古館・立面圖	なし	なし	なし	なし	
		36	なし	本館壁鉄筋圖	1/50	なし	なし	あり	
		37	なし	大倉集古館別館入母屋詳細圖	1/10	正方形	なし*	なし	動物モチーフの詳細あり
		38	なし	大倉集古館本館正面詳細圖	1/20	正方形	なし*	なし	
		39	なし	大倉集古館車寄破風詳細圖	1/10	正方形	なし*	なし	動物モチーフの詳細あり
		40	昭和二年十二月	大倉集古館各種配線配管圖	1/300	なし	なし	なし	ケント紙にインキングされた原図 配置圖に設備が書き込まれている
5 大成所蔵		41	なし	大倉集古館電気配線圖	1/100	なし	なし	なし	ケント紙にインキングされた原図 平面圖に電気設備が書き込まれている
		42	なし	大倉集古館電燈器具詳細圖	1/5	正方形	なし*	なし	
		43	なし	本館矩計圖	なし	なし	なし	あり

図 2 図面タイトル枠 (左・意匠図、右・構造図)

図 4 動物をモチーフにした詳細図 (抜粋)

図 3 60mm 角の図面タイトル枠の意匠図面
(表 1 No18 大倉集古館本館室内詳細図)

ど伊東忠太らしい動物をモチーフにした詳細図が多くある(図4)。60mm角の図面タイトル枠の意匠図は、図面内容と筆致から、伊東忠太関与の意匠設計図と判断した。これら寸法のない意匠設計図面を具現化するために、大倉土木の設計・施工両部門のバックアップがあったことは想像に難くない。

4.3 「市街地建築物法に基づく変更申請書の添付図」

図面枚数 3 枚(表 1 No30~32)

建築許可証の発行日は大正 15 (1926) 年 6 月 2 日である。表書き変更申請書の次に、青焼き図面が折込まれて綴じ綴でまとめられている。変更は全て構造図で、構造図に朱書きで訂正部が記入されている。訂正後の構造計算書 8 ページ(日付は大正 14 年 10 月 24 日)と訂正前の計算書 26 ページも添付されていた。計算書はいずれも大倉土木の記名があり、構造設計は大倉土木が担当していた。

4.4 バラ図 図面枚数 9 枚(表 1 No33~41)

図面9枚のうち3枚には、60mm角の図面タイトル枠が書かれている。表 1 No12から21の意匠図と一連の図面と考えられることから、伊東忠太関与の意匠設計図と判断した。表 1 No36の大倉集古館敷地排水設備配置図(日付は大正14年11月)は、表 1 No2の配置図に排水設備を記入したものである。また原図が2枚、ケント紙に書かれた設備図がある。表 1 No37の平面図は、図面内容から検討過程の平面図と考えられる。

4.5 大成建設所蔵図面 図面枚数 2 枚(表 1 No40・41)

図面 2 枚のうち 1 枚には、60mm 角の図面タイトル枠が書かれており、上記と同様に伊東忠太関与の意匠設計図と判断した。この 1 枚の図面は大倉集古館ではなく、大成建設にのみ保管されていた。No41 本館矩計図には、張石・シャッターボックス・シャッター操作ボックスそれぞれと躯体の関係が表現されており、施工中に書かれたものと考えられる。

5 祇園閣図面との比較

大倉集古館と祇園閣は同じ施主・設計者・施工者で、ほぼ同時期に実施されたプロジェクトだった^(注4)。竣工写真帖も「財団法人大倉集古館、祇園閣、京都大倉別邸建築記念寫真帖」³⁾ という名称で、1冊にまとめられおり関係が深い。写真帖には設計者・施工者の記載があるが、大倉集古館と祇園閣では内容が異なる。大倉集古館において「設計 工学博士伊東忠太」「施工 大倉土木株式会社」、祇園閣においては「設計及監督 工学博士伊東忠太」「製図及施工 大倉土木株式会社」である。それを裏付けるように、祇園閣の意匠設計図は大倉土木図面枠に書かれた一式が残されていた⁹⁾。一方大倉集古館図面では大倉土木図面枠の意匠設計図面はなく、伊東忠太が関与した意匠設計図面があった。祇園閣図面ではその詳細デザイン画において、伊東忠太と大倉土木建築部が何度もやりとりをし、確認しながら詳細デザインを仕上げる経緯が読み取れたが、大倉集古館図面にはそのやりとりは残されていない。その理由のひとつとして、建設地が東京と京都で異なることがあげられるだろう。設計者・施工者・建設地が東京である大倉集古館の工事において、伊東忠太が現場に出向き施工担当者に直接指示する機会は多かったはずである。一方祇園閣工事では直接指示できない代わりに図面によって指示され、その経緯が図面に多く残されたのではないだろうか。

6 まとめ

本研究は、大倉集古館の創建時図面対象に行なった調査報告である。創建時図面は43枚あり、そのうち伊東忠太の関わりが明確に記された図面は1枚だった。その 1 枚以外では、60mm角の図面タイトル枠の意匠図面14枚(大倉集古館所蔵13枚大成建設所蔵1枚)に伊東忠太の関与があったと考えた。この14枚全てに共通で、寸法記入が全くない。寸法のない意匠設計図面を具現化するために、大倉土木のバックアップがあったと考えられる。また構造設計は大倉土木が行い、市街地建築物法に基づく建築申請書に記入された申請者名も大倉土木であることを確認した。

謝辞

本研究にあたり公益財団法人大倉文化財団大崎磐夫特別顧問に、聞き取り調査にご協力いただいた。大倉集古館学芸員三島知美様には資料分類にご協力いただいた。深く御礼申し上げます。

注

- 注 1) 大倉集古館の創建時図面は、伊東博士作品集¹⁾に平面図と立面図の 2 枚が、当時の建築雑誌²⁾に作品集と同じ平面図と立面図、加えて本館室内詳細図と別館車寄及玄関詳細図の 4 枚が掲載されている。また記念写真帖³⁾にも作品集と建築雑誌と同じ平面図が掲載されている。
注 2) 祇園閣の現在の所有者は創建時とは異なっており、現所有者は創建時祇園閣図面を所有していないことをヒアリングにて確認した。
注 3) 祇園閣図面全 82 枚のうち 7 枚を伊東忠太自筆図と考えた根拠は、①作品集に自筆図として掲載②工学博士伊東忠太考案等の書き込み③忠太印④筆致⑤スケールバー記入⑥人物の記載だった。
注 4) 工事期間は、祇園閣：起工大正 15 年 7 月 5 日、竣工昭和 2 年 12 月 10 日、大倉集古館：起工大正 15 年 1 月 20 日、竣工昭和 2 年 11 月 2 日。

参考文献

- 1) 倉方俊輔監修：写真集成 近代日本の建築 14 (伊東博士作品集刊行編：伊東忠太建築作品集, 城南書院, 1941 を収録), ゆまに書房, 2014
- 2) 大倉集古館巻末付図, 建築雑誌第 42 巻第 508 号, 日本建築学会, 1928.4
- 3) 大倉土木株式会社：財団法人大倉集古館、祇園閣、京都大倉別邸建築記念寫真帖, 1927
- 4) 杉江夏呼：大成建設設計部所蔵「伊東忠太設計の大倉喜八郎関連図面」その 1 概要, 日本建築学会大会 (関東) 梗概集, 2015.9
- 5) 倉方俊輔：伊東忠太の大正・昭和期における図面史料の考察 大正・昭和期の図面類にみる伊東忠太の設計活動 その 1, 日本建築学会計画系論文集, 第 578 号, 2004.4
- 6) 倉方俊輔：伊東忠太の最初期の創作活動について・明治期の図面類にみる伊東忠太の設計活動その 1, 日本建築学会計画系論文集, 第 558 号, 2002.8
- 7) 倉方俊輔：伊東忠太の西本願寺関連の計画について・明治期の図面類にみる伊東忠太の設計活動その 2, 日本建築学会計画系論文集, 第 566 号, 2003.4
- 8) 杉江夏呼, 堀米純子：大成建設設計部所蔵「伊東忠太設計大倉集古館三層閣及廊図面」, 日本建築学会大会 (九州) 梗概集, 2016
- 9) 杉江夏呼：大成建設設計部所蔵「伊東忠太設計祇園閣図面」, 日本建築学会技術報告集, 第 22 巻 第 51 号, pp. 783-788, 2016.6
- 10) 財団法人大倉文化財団：大倉集古館の名品, 2012.12
- 11) 鈴木博之編：伊東忠太を知っていますか, 王国社, 2003.4
- 12) 岸田日出刀：建築学者伊東忠太, 乾元社, 1945

[2017 年 6 月 7 日原稿受理 2017 年 12 月 5 日採用決定]